

令和 8 年度 第 1 回全国健康保険協会山形支部評議会議事概要

開 催 日	令和 8 年 7 月 21 日（火）14：00～16：00
開 催 場 所	全国健康保険協会山形支部 会議室
出 席 者	伊藤評議員、金山評議員、菅野評議員、小沼評議員、齋藤評議員、保科評議員、水澤評議員、吉田評議員、吉原評議員（五十音順）
議 題	1. 令和 7 年度 全国健康保険協会決算報告 2. 都道府県単位保険料率の平準化措置の取扱いについて及び中期戦略プランについて 3. 令和 7 年度 山形支部事業実施結果報告及び令和 6 年度 山形支部データ分析
議 事 概 要 (主な意見等)	1. 令和 7 年度 全国健康保険協会決算報告 事務局より資料に沿って説明。 【被保険者代表】 黒字決算に関しては喜ばしいが、残念なこととしては山形支部の収支差が、全国平均分と比べて下回ったことにより、次年度の保険料率の引上げに作用することである。新生物や精神及び行動の障害に係る一人当たり医療費が増加したことによるとのことだが、より詳しく原因を究明し対処していただきたい。 また、医療費適正化に向けた働きかけについては、われわれ患者側に対してだけでなく、医療機関側への働きかけも必要ではないかと個人的に感じることもある。不要ではないかと思われる検査も実施されたりと全体の医療費を考慮しない対応が見受けられる。 【事業主代表】 全国では過去最高額の黒字とのことだが、山形支部においても過去最高なのか。 【事務局】 山形支部の収支差は黒字ではあるが、また地域差で見ると全国平均分と比べてマイナスとなっている。 【事業主代表】 地域差がマイナスということは、人口減少や高齢化という山形県の問題が影響しているのではないかと考えると、黒字と言っても手放しで喜べない。 【事務局】 山形支部の場合、高齢化に対しては年齢調整により、保険料率上昇が抑制されているので、地域差がマイナスになった原因は、一人当たり医療費の伸びが保険料率算定時の見込みより高くなった

ためである。

【被保険者代表】

安定財源として国庫補助をいただけるよう、国に対して引続き要請していただきたい。

また、人手不足と言われている医療従事者や協会けんぽ職員の処遇改善を図り、質の高い医療を提供できるように保険料を活用していただきたい。

**2. 都道府県単位保険料率の平準化措置の取扱いについて及び中期戦略プランについて
事務局より資料に沿って説明。**

【事業主代表】

山形支部の保険料率は東北の中でも低い。働く人にとっては、保険料率が低いということがやはり重要である。中期戦略プランでは、山形支部としてどのような取組みを行うのか、よく検討していただき、インセンティブ上位を目指していただきたい。

【学識経験者】

インセンティブの指標と中期戦略プランとは密接に関係してくるのか。

【事務局】

インセンティブの指標は本部が設定し、今のところ、当該指標が変更されるという情報はないが、変更があった場合は、その指標に着目した計画を立て、評議会にてご意見を賜りたい。

【被保険者代表】

都道府県単位保険料率の平準化措置については、後付けの仕組みではないかと考える。この仕組みでは、一生懸命取り組んだ結果であるインセンティブの減算効果が薄れてしまい、努力が報われないという印象にもつながる。昨年度は厚生労働省からの強い要請があったとのことだが、これまで保険料率について議論してきた運営委員や評議員の存在意義について、厚生労働省はどう考えているのかという疑問を抱かざるを得ない。個人的には納得しがたい。

中期戦略プランについては山形支部の課題は健診の更なる進化を求めていくべきと考える。特に若年層に対する健診をいかに充実させるが重要。

先日の第12回調査研究フォーラムで北海道支部が発表した「口の中の健康と喫煙の関係」が興味深かった。是非、山形支部でも、これまで取り上げなかった口腔衛生と健康との関係性等について研究していただきたい。

【被保険者代表】

中期財政戦略として、準備金の在り方について是非、議論していただきたい。

また、都道府県単位保険料率の平準化措置についてだが、そもそも調整前において全国平均よりも低かった山形支部の保険料率を前年度と同じに抑制するという大義名分が不明である。それで背負わされた借金を返さないといけなくなる事には到底納得できるものではない。政府に対して異議を申し上げたい。

【学識経験者】

健康づくり戦略プランを一番の重点課題としていることについて共感している。是非、山形支部としての特色を出して施策を考えていただきたい。また、健診受診率向上に向け、引続き取り組んでいただきたい。

3. 令和7年度 山形支部事業実施結果報告及び令和6年度 山形支部データ分析
事務局より資料に沿って説明。

【事業主代表】

山形県の場合、約7割が小規模事業所に該当すると思われる。生活習慣病予防健診未受診者に対する勧奨について、小規模事業所に対していかに情報を届けるかが大きな課題だと考える。小規模事業所が所属する商工会や商工会議所等の広報を活用するなどをご検討いただきたい。

【事務局】

受診率向上に向けて、事業所宛ではなく、被保険者数が4人未満である小規模事業所の加入者に直接届くよう、DMを送付して受診勧奨を行っている。

【事業主代表】

レセプト点検についてはAIを活用すれば、効率が上がるのではないか。

【事務局】

レセプト点検については、支払基金で行う一次審査と協会けんぽの二次審査がある。支払基金ではまず、AIを活用し、全件コンピューターチェックを実施し、それ以外の処理しきれない部分は目視で点検を行っている。一方、協会けんぽではシステムによる自動点検を行い、点数が高いレセプトを中心に点検員が目視で集中的に確認するという方法で、人間と機械が確認するものを分けて点検している。

【事業主代表】

山形支部データ分析は大変面白い。医師会等と共有するのか。

山形県の特徴としては、血圧が高いこと、脂質異常が多いことだが、これは食生活が関係しているのか。分析結果から判明した課題に取り組んでいただきたい。

【事務局】

国民健康保険、健康保険組合及び後期高齢者医療制度の保険者で構成する保険者協議会では、定期的に年1回データを持ち寄り、医療費・健診結果分析を実施している。この分析では山形の70代、80代においては胃がんの罹患率が全国と比べて高いという特色があった。将来的な胃がんの罹患率を減らすためには若い時から胃がん検診を受けていただき、場合によってはピロリ菌の除去を行うことで、将来の胃がんの罹患率の低下につながると思う。このように県内のデータを持ち寄って分析し、保険者間で連携・協力して、現役世代への有効な取組みを検討していきたい。

血圧が高いことは東北地方全体の課題だが、寒いことと塩分の過剰摂取が要因として考えられる。山形では、野菜や果物でカリウムを摂ってナトリウムを排出しようという県の呼びかけもあり、加入者等に塩分を抑えつつ野菜を食べましょうという働きかけを行って参りたいと考えている。